

22.9.2004

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日  
Date of Application: 2 0 0 3 年 1 0 月 2 1 日

出 願 番 号  
Application Number: 特 願 2 0 0 3 - 3 6 0 2 5 6  
[ST. 10/C]: [ J P 2 0 0 3 - 3 6 0 2 5 6 ]

出 願 人  
Applicant(s): コニカミノルタフォトイメージング株式会社

REC'D 14 OCT 2003

WIPO

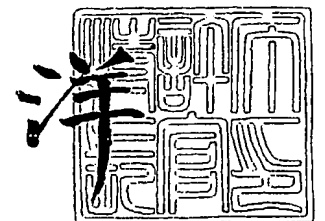
PCT

**PRIORITY  
DOCUMENT**  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2 0 0 4 年 7 月 2 7 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

小 川



【書類名】 特許願  
【整理番号】 DMI00129  
【提出日】 平成15年10月21日  
【あて先】 特許庁長官殿  
【国際特許分類】 G06K 19/00  
G06F 7/02  
【発明者】  
【住所又は居所】 東京都八王子市石川町 2 9 7 0 番地 コニカミノルタフォトイメ  
ーシング株式会社内  
【氏名】 上田 豊  
【特許出願人】  
【識別番号】 303000419  
【氏名又は名称】 コニカミノルタフォトイメージング株式会社  
【代理人】  
【識別番号】 100114672  
【弁理士】  
【氏名又は名称】 宮本 恵司  
【電話番号】 042-730-6520  
【手数料の表示】  
【予納台帳番号】 093404  
【納付金額】 21,000円  
【提出物件の目録】  
【物件名】 特許請求の範囲 1  
【物件名】 明細書 1  
【物件名】 図面 1  
【物件名】 要約書 1  
【包括委任状番号】 0304862

**【書類名】 特許請求の範囲****【請求項 1】**

データを入力する手段と、  
記録媒体の特定の領域から、該記録媒体を識別するための情報を抽出する手段と、  
前記抽出した情報と予め定められた情報とを比較し、前記抽出した情報と前記予め定められた情報とが一致する場合に、該記録媒体に、前記入力されたデータを記録する手段と、  
を少なくとも備えることを特徴とする情報記録装置。

**【請求項 2】**

前記特定の領域とは、ディスク型記録媒体の論理アドレス領域の内側の領域であることを特徴とする請求項 1 記載の情報記録装置。

**【請求項 3】**

前記データは、静止画像データ、動画データ、楽曲音声データ、コンテンツ、アプリケーションの中から選択される 1 又は複数のデータであり、該データは、ユーザが提供したデータ、記憶手段に予め記憶されているデータ、又は、通信ネットワークを介してダウンロードしたデータのいずれかを含むことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の情報記録装置。

**【請求項 4】**

コンピュータを、少なくとも、  
記録媒体の特定の領域から、該記録媒体を識別するための情報を抽出する手段、  
前記抽出した情報と予め定められた情報とを比較し、前記抽出した情報と前記予め定められた情報とが一致する場合に、前記記録媒体に、入力されたデータを記録する手段、として機能させることを特徴とする記録プログラム。

**【請求項 5】**

前記特定の領域とは、ディスク型記録媒体の論理アドレス領域の内側の領域であることを特徴とする請求項 4 記載の記録プログラム。

**【請求項 6】**

前記データは、静止画像データ、動画データ、楽曲音声データ、コンテンツ、アプリケーションの中から選択される 1 又は複数のデータであり、該データは、ユーザが提供したデータ、記憶手段に予め記憶されているデータ、又は、通信ネットワークを介してダウンロードしたデータのいずれかを含むことを特徴とする請求項 4 又は 5 に記載の記録プログラム。

**【請求項 7】**

特定のプログラムで利用される、記録媒体を識別するための情報が、予め特定の領域に記録されていることを特徴とする記録媒体。

**【請求項 8】**

前記特定のプログラムとは、前記情報を参照して、入力されたデータを記録するか否かを判断するプログラムであることを特徴とする請求項 7 記載の記録媒体。

**【請求項 9】**

前記特定の領域とは、ディスク型記録媒体の論理アドレス領域の内側の領域であることを特徴とする請求項 7 又は 8 に記載の記録媒体。

**【書類名】明細書****【発明の名称】情報記録装置及び記録プログラム並びに記録媒体****【技術分野】****【0001】**

本発明は、入力されたデータを記録するための情報記録装置及び記録プログラム並びに入力されたデータが記録される記録媒体に関する。

**【背景技術】****【0002】**

近年、写真に関連する様々なサービスが提供されるようになってきている。例えば、ユーザがデジタルカメラで写真を撮影し、写真の画像データを記録したデジタルカメラやデジタルカメラ用メディアをミニラボ等の写真店に持ち込み、店舗内に設けられた無人端末（キオスク）や店頭端末などを用いて、デジタルカメラやメディアに記録された画像データをCD-R、DVD-Rなどの記録媒体に書き込むことができる。

**【0003】**

また、ユーザがフィルムカメラで写真を撮影し、撮影済みのフィルムをミニラボ等の写真店に持ち込むと、写真店ではフィルムを現像した後、スキャナ等の読み取り装置を用いて画像データを読み取り、CD-R、DVD-Rなどの記録媒体に書き込んでユーザに提供するサービスも行われている（例えば、特開平5-182373号公報等）。

**【0004】**

また、デジタルカメラやメディア、フィルムから読み取った画像データを、例えば、DVDプレーヤやDVDレコーダのような画像再生機器で再生することができるようファイル形式を変換し、元の画像データと変換した画像データとをCD-R、DVD-Rなどの記録媒体に書き込むサービスも行われている。

**【0005】**

そして、ユーザは画像データが書き込まれた記録媒体をパソコンに挿入し、パソコンにインストールされているスライドショープログラムなどのアプリケーションを用いて画像データの表示、編集、画像処理などを行ったり、記録媒体を画像再生機器に挿入して画像データを表示するなどして画像データを活用することができる。

**【0006】**

【特許文献1】特開平5-182373号公報（第4-6頁、第3図）

**【発明の開示】****【発明が解決しようとする課題】****【0007】**

上記サービスを提供する業者にとっては、自社が提供するCD-RやDVD-R等の記録媒体を用いてデータの書き込みが行われることが望ましいが、従来の記録媒体には、データの書き込みを制御するプログラムで利用される情報が書き込まれているものではなく、また、情報記録装置には、記録媒体に書き込まれている情報を利用して書き込みを制御する機能を備えているものはないため、任意の記録媒体にデータを書き込むことができ、その結果、サービス提供者が提供する記録媒体の利用促進を図ることができなかった。また、この問題は画像データに限らず、楽曲音声データやコンテンツ、アプリケーションなどのデータに関しても同様に生じる。

**【0008】**

本発明は、上記問題点に鑑みてなされたものであって、その主たる目的は、特定の記録媒体に対してのみ入力されたデータの書き込みを行うことができる情報記録装置及び記録プログラム並びに入力されたデータの書き込みが可能な記録媒体を提供することにある。

**【課題を解決するための手段】****【0009】**

上記目的を達成するため、本発明の情報記録装置は、データを入力する手段と、記録媒体の特定の領域から、該記録媒体を識別するための情報を抽出する手段と、前記抽出した情報と予め定められた情報とを比較し、前記抽出した情報と前記予め定められた情報とが

一致する場合に、該記録媒体に、前記入力されたデータを記録する手段と、を少なくとも備えるものである。

【0010】

また、本発明の記録プログラムは、コンピュータを、少なくとも、記録媒体の特定の領域から、該記録媒体を識別するための情報を抽出する手段、前記抽出した情報と予め定められた情報とを比較し、前記抽出した情報と前記予め定められた情報とが一致する場合に、前記記録媒体に、入力されたデータを記録する手段、として機能させるものである。

【0011】

本発明においては、前記特定の領域とは、ディスク型記録媒体の論理アドレス領域の内側の領域とすることができる。

【0012】

また、本発明においては、前記データは、静止画像データ、動画データ、楽曲音声データ、コンテンツ、アプリケーションの中から選択される1又は複数のデータであり、該データは、ユーザが提供したデータ、記憶手段に予め記憶されているデータ、又は、通信ネットワークを介してダウンロードしたデータのいずれかを含むことが好ましい。

【0013】

また、本発明の記録媒体は、特定のプログラムで利用される、記録媒体を識別するための情報が、予め特定の領域に記録されているものである。

【0014】

本発明においては、前記特定のプログラムとは、前記情報を参照して、入力されたデータを記録するか否かを判断するプログラムとすることができる。

【0015】

このように、本発明の記録媒体には、記録プログラムで利用される、該記録媒体を識別するための情報が論理アドレス領域外などの特定の領域に記録されており、記録プログラム又は該記録プログラムにより機能する情報記録装置では、該記録媒体の特定の領域から上記情報を抽出し、該情報が予め定められた情報と一致する場合にのみ入力されたデータ（画像データや楽曲音声データ、コンテンツ、アプリケーションなど）が記録媒体に記録されるため、サービス提供者は自社が提供する記録媒体の利用促進を図ることができる。

【発明の効果】

【0016】

本発明の情報記録装置及び記録プログラム並びに記録媒体によれば、特定の記録媒体にのみ入力されたデータを記録することができる。

【0017】

その理由は、記録媒体には、特定の記録プログラムで利用される、該記録媒体を識別するための識別情報が特定の領域（例えば、パソコンのOSでは通常アクセスすることができない論理アドレス領域外）に記録されており、記録プログラム又は該記録プログラムにより機能する情報記録装置では、該記録媒体の特定の領域から上記識別情報を抽出し、識別情報が予め記憶されている情報と一致する場合にのみ、入力されたデータ（画像データや楽曲音声データ、コンテンツ、アプリケーションなど）を記録するからである。そして、このような仕組みを設けることにより、サービス提供者は自社が提供する記録媒体の利用促進を図ることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0018】

本発明に係る記録プログラムは、その好ましい一実施の形態において、コンピュータを、少なくとも、CD-RやDVD-Rなどの記録媒体の特定の領域から、記録プログラムで利用される、該記録媒体を識別するための識別情報を抽出する識別情報抽出手段、抽出した識別情報と予め定められた情報とを比較し、識別情報と予め定められた情報とが一致する場合に、入力されたデータ（静止画像データや動画データ、音楽データ、コンテンツ、アプリケーションなど）を記録媒体に記録するデータ記録手段として機能させるものであり、予め、記録媒体の特定の領域（好ましくは論理アドレス領域外）に上記識別情報を

書き込んでおくことにより、サービス提供者が提供する記録媒体の利用促進を図ることができる。

#### 【実施例】

##### 【0019】

上記実施形態について詳細に説明すべく、本発明の一実施例に係る情報記録装置及び記録プログラム並びに記録媒体について、図1乃至図8を参照して説明する。図1乃至図4は、本発明の一実施例に係る情報記録装置の構成を模式的に示す図であり、図5は、その機能を示すブロック図である。また、図6は、本実施例の情報記録方法の手順を示すフローチャート図であり、図7は、記録媒体におけるデータの記録領域を示す図である。また、図8は、記録媒体（CD-R）の構造を模式的に示す図である。

##### 【0020】

まず、本発明の一実施例に係る情報記録装置について、図1を参照して説明する。本実施例の情報記録装置1は、スマートメディア、コンパクトフラッシュ（登録商標）、メモリースティック（登録商標）、SDメモリーカード、マルチメディアカードなどのデジタルカメラ用やカメラ付き携帯電話機用の記録媒体（以下、メディア8と呼ぶ。）を装填するメディア装填部2、デジタルカメラ7やカメラ付き携帯電話機7a等の撮影機器（以下、デジタルカメラ7として説明する。）を有線又は無線、赤外線等によって接続するための機器接続部3、インターネット等の通信ネットワーク18を介してサーバ19からデータをダウンロードするネットワーク接続部17等のデータ入力手段と、メディア8やデジタルカメラ7から読み取った、又はサーバ19からダウンロードしたデータ（静止画像データ、動画データ、楽曲音声データ、コンテンツ、アプリケーション等、以下、単にデータと呼ぶ。）を記録するCD-RやDVD-R等の記録媒体9を装填する記録媒体装填部4と、ボタン、キーボード、マウス等の操作部6及びLCD、CRT等の表示部5（図では操作部6と表示部5とを兼ね備えるタッチパネルを示している。）とを備えている。

##### 【0021】

また、情報記録装置1の機能をブロック図で示すと図5のようになる。すなわち、メディア装填部2、機器接続部3、ネットワーク接続部17等を用いてデータを入力するデータ入力手段10と、表示部5や操作部6等の操作手段11と、記録媒体9の特定の領域（例えば、論理アドレス領域外）から、データの記録が可能な記録媒体9を識別するための情報（以下、識別情報と呼ぶ。）を抽出する識別情報抽出手段12と、必要に応じて、入力したデータ（例えば、静止画像データ）をDVDプレーヤやDVDレコーダ等の画像再生機器で再生可能な形式のデータ（例えば、動画データ）に変換するデータ変換手段13と、データの記録順序を制御するデータ転送手段14と、識別情報と予め定められた情報とが一致する場合に、データ転送手段14によって転送されたデータを記録媒体9に書き込むデータ記録手段15と、データ記録手段15に書き込むデータを一時的に格納すると共に、記録媒体9に書き込むデータや識別情報と比較される情報等を記憶する記憶手段16とを備えている。上記各手段はハードウェアとして構成されていてもよいが、コンピュータを、少なくとも、識別情報抽出手段12、データ記録手段15として機能させる記録プログラムを情報記録装置1にインストールして実行する構成としてもよい。

##### 【0022】

なお、ここでは、説明を容易にするためのデータ転送手段14とデータ記録手段15とを便宜上別々の手段としているが、これらは一つの手段として構成されていてもよい。また、図1では、記録媒体装填部4を記録媒体9にデータを記録する手段として用いているが、予めコンテンツなどのデータが記録された記録媒体を装填し、該記録媒体からデータを入力する手段として用いてもよい。また、図1では写真店やコンビニエンスストア等の店舗に設置可能なキオスク型の情報記録装置1を記載しているが、情報記録装置1の形態は任意であり、例えば、図2に示すように専用のセットトップボックスとしたり、図3に示すようにポータブルライターなどとしてもよいし、図4に示すように、メディア8を装填するスロットやデジタルカメラ7等を接続する端子、記録媒体9にデータを書き込むドライブ等を備えたパソコンやDVDレコーダを用いてもよい。

**【0023】**

上記構成の情報記録装置1を用いて、ユーザが提供したデータが記録媒体9に記録されるまでの手順について、図6のフローチャート図を参照して説明する。なお、以下では、読み取ったデータをパソコン及び画像再生機器の双方で閲覧できるように2種類のデータを記録媒体9に記録する場合について示すが、一方の機器でのみ再生可能なデータを記録媒体9に記録する場合も同様に適用することができる。

**【0024】**

まず、ステップS101で、情報記録装置1のメディア装填部2にメディア8を装填、又は、機器接続部3にデジタルカメラ7を接続、又はネットワーク接続部17を通信ネットワーク18に接続すると共に、予め特定の領域に識別情報が記録された記録媒体9を記録媒体装填部4に装填する。この記録媒体9は、情報記録装置1が設置される店舗で購入してもよいし、他の店舗で購入してもよく、また、以前に購入してデータの書き込みを行った記録媒体9を再度利用してもよい。

**【0025】**

次に、ステップS102で、識別情報抽出手段12は、記録媒体9の特定の領域から、記録プログラムで利用される、該記録媒体9を識別するための識別情報を抽出する。この識別情報は、記録媒体9のどの領域に記録されていてもよいが、パソコンのOSでアクセス可能な領域（論理アドレス領域）に記録すると、識別情報が書き換えられたり、識別情報が不正にコピーされる恐れがある。

**【0026】**

ここで、一般的な記録媒体9（CD-R）の構造について、図8を参照して説明すると、CD-Rは、ポリカーボネート基板100上に、シアニン、フタロシアニン、アゾなどの有機色素層101と銀などの反射層102と保護層103とが積層されて形成され、有機色素層101に所定のパワーのレーザ光を当てて色素を分解して基板を変形させることでピットを形成し、情報の記録を行っている。このレーザのパワーは、レーザ光を照射するレーザヘッドの方式や使用する有機色素層101の種類に応じて最適な値が異なるため、情報の書き込み、読み出しを確実にを行うためにはCD-Rがどのような色素を用いて製作されているかをドライブ側が認識する必要がある。そこで、CD-Rに用いる色素の種類やCD-Rを製作するメーカーの名称などの情報を記録媒体9の製造段階でその最内周に書き込み、その情報をドライブのファームウェアで読み取り、ファームウェアが独自にレーザヘッドを制御してレーザパワーの調整を行っている。このようにディスクの最内周の領域はCD-Rの素性などに関する情報を記録する領域として使用され、通常、パソコンのOSではアクセスすることができない領域であることから、本実施例ではこの領域（論理アドレス領域外）に記録媒体9の識別情報を書き込み、識別情報自体の改竄やコピーができないようにしている。

**【0027】**

このように、記録媒体9の論理アドレス領域外に、記録プログラムで利用される識別情報を書き込んでおくことにより、サービス提供者が提供する記録媒体9と他の記録媒体とを差別化することが可能となる。なお、この識別情報の内容は限定されず、例えば、メーカー名、ソフトウェア名、対応可能な機種名などとすることができ、CD-R、DVD±R/RW、DVD-RAMなどにプレスされている製造者コード（Manufacture code）を活用してもよいし、ディスク規格内の特別領域（情報を書き込むことができるように特別に用意された領域）を活用してもよいし、複数の記録媒体9で識別情報が重複しないようにユニークな構成としてもよく、少なくとも、記録プログラムが入力されたデータを記録するか否かを判断する際に利用可能なものであればよい。また、この識別情報は記録プログラムが認識できる形式で記録されていればよく、ファイル形式でないデータとして記録することによって識別情報自体の改竄やコピーを有効に防止することができる。更に、識別情報は、記録媒体9の製造後にサービス提供者が専用の装置を用いて書き込んでもよいが、識別情報の読み取りを確実にするために、記録媒体9の生産時にプリプレスで埋め込まれることが好ましい。

**【0028】**

そして、ステップS103で、記録媒体9から抽出した識別情報と記憶手段16に記憶されている情報とを比較し、識別情報と予め定められた情報とが一致する場合は、ステップS104で、データ入力手段10を用いて、デジタルカメラ7やメディア8に記録されたデータやサーバ19に記録されたデータ、記憶手段16に記憶されているデータ（静止画像データ、動画データ、音楽データ、コンテンツ、アプリケーションなどを含む。ここでは、デジタルカメラ7やメディア8に記録された静止画像データとする。）を読み取る。

**【0029】**

なお、記録媒体9の特定の領域（例えば、論理アドレス領域外）に識別情報が記録されているか否かのみならず、該識別情報が予め定められた情報と一致するか否かを判断しているのは、他の記録媒体でも特定の領域に記録媒体を識別するための情報（例えば、記録媒体の製造者の情報など）が記録されている場合があるためである。従って、特定の領域に記録媒体9を識別するための識別情報が記録されている場合であっても、該識別情報が記録プログラムで利用される情報でなければ、すなわち、識別情報と予め定められた情報とが一致しなければ、入力されたデータの記録は行われない。

**【0030】**

次に、必要に応じて、ステップS105で、データ変換手段13を用いて読み取った静止画像データを別のファイル形式のデータ（ここでは、DVDプレーヤやDVDレコーダ等の画像再生機器で読み取り可能なMPEG1、MPEG2等の形式の動画データやVCD形式データ、DVD-Video形式データ）に変換する。静止画像データから動画データを作成する方法は特に限定されないが、例えば、静止画像データをスライドショーのように表示する場合は、静止画像データにスライド表示の時間分の差分0のデータを付加して動画データを生成したり、静止画像データにスライドショープログラムで設定されたスライド効果に基づく差分データを付加して動画データを生成することができる。なお、画像再生機器用の画像データを作成しない場合はこのステップは不要である。また、元のデータや画像再生機器用に変換されたデータが無制限に利用されないようにする場合は、必要に応じて、それらの全て又はその一部をスクランブルして、特定のプログラムでのみ再生できるようにしてもよい。

**【0031】**

次に、画像再生機器用のデータを作成した場合は、ステップS106で、データ転送手段14は、データ変換手段13で変換されたデータや関連付けデータ等（以下、これらを総称して画像再生機器用データ群と呼ぶ。）を記憶手段16に予め設けた書き込み用の所定のフォルダに転送する。すると、データ記録手段15は、該フォルダから画像再生機器用データ群を読み出して、記録媒体9の論理アドレス領域の内側に記録する。ここで、動画データの画像形式としてMPEG1又はMPEG2を用いCD-Rに記録すればVideo-CD形式の記録媒体9を作成することができ、動画データの画像形式としてMPEG2を用いDVD-Rに記録すればDVD-Video形式の記録媒体9を作成することができる。

**【0032】**

次に、ステップS107で、データ記録手段15は、パソコン用のデータの記録を行う前に、画像再生機器で使用可能なデータの領域を区分するために一旦セッションをクローズする。

**【0033】**

次に、ステップS108で、データ転送手段14は、入力されたデータ、静止画像データをスライド表示するためのアプリケーション、スライドショーの設定データ等（以下、これらを総称してパソコン用データ群と呼ぶ。）を記憶手段16に予め設けた書き込み用の所定のフォルダに転送する。すると、データ記録手段15は、該フォルダからパソコン用データ群を読み出して、記録媒体9に先に記録された画像再生機器用データ群の外側に記録して一連の書き込み処理を終了する。



## 【0034】

上記手順で作成された記録媒体9には図7に示すようになり、ディスク型記録媒体9の最も内側の論理アドレス領域外には、所定の形式（好ましくはファイル形式でないデータ）の識別情報が予め記録されており、その外側の論理アドレス領域の内側には、画像再生機器用データ群が記録され、更にその外側にはパソコン用データ群が記録される。

## 【0035】

なお、上記手順では、パソコン及び画像再生機器の双方で読み取れるようにデータ転送手段14で書き込み順番を制御したが、書き込みの順番を問わない場合はどちらのデータを先に書き込んでもよい。また、上記手順では、ステップS101でメディア8の装填やデジタルカメラ7の接続を行った後、ステップS102で識別情報を抽出する構成としたが、始めに記録媒体装填部4に記録媒体9を装填し、記録媒体9に識別情報が記録されており、その識別情報と予め定められた情報とが一致する場合に、メディア8の装填やデジタルカメラ7の接続を要求するようにしてもよい。

## 【0036】

このように、本実施例の記録媒体9には、予め、記録プログラムで利用される識別情報が特定の領域（好ましくは、論理アドレス領域外）に書き込まれており、記録プログラム又は該記録プログラムで機能する情報記録装置1では、記録媒体9から識別情報を抽出し、識別情報が予め定められた情報と一致する場合にのみ入力されたデータの記録を行うため、サービス提供者は自社が提供する記録媒体9が利用されるように仕向けることができ、記録媒体9の利用促進を図ることができる。

## 【0037】

なお、上記各実施例では、デジタルカメラ7やメディア8、フィルムから読み取ったデータを記録媒体9に書き込む場合について示したが、本発明は上記実施例に限定されるものではなく、任意のデータを記録媒体9や記憶手段に書き込む場合についても同様に適用することができる。

## 【図面の簡単な説明】

## 【0038】

【図1】本発明の第1の実施例に係る情報記録装置の構成を示す外観図である。

【図2】本発明の第1の実施例に係る情報記録装置の他の構成を示す外観図である。

【図3】本発明の第1の実施例に係る情報記録装置の他の構成を示す外観図である。

【図4】本発明の第1の実施例に係る情報記録装置の他の構成を示す外観図である。

【図5】本発明の第1の実施例に係る情報記録装置の機能を示すブロック図である。

【図6】本発明の第1の実施例に係る情報記録装置を用いた情報記録媒体の作成手順を示すフローチャート図である。

【図7】本発明の第1の実施例に係る情報記録媒体の情報記録領域を示す図である。

【図8】記録媒体（CD-R）の構造を示す断面図である。

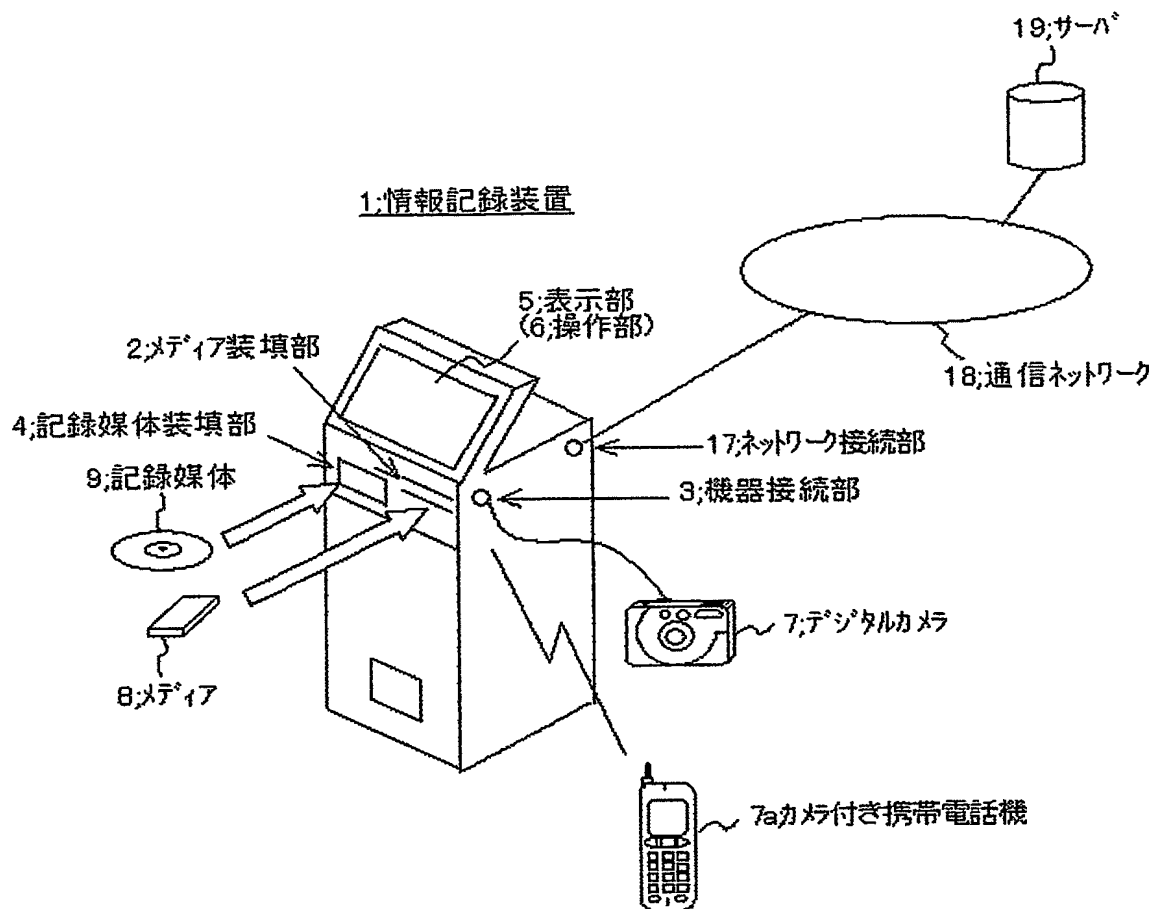
## 【符号の説明】

## 【0039】

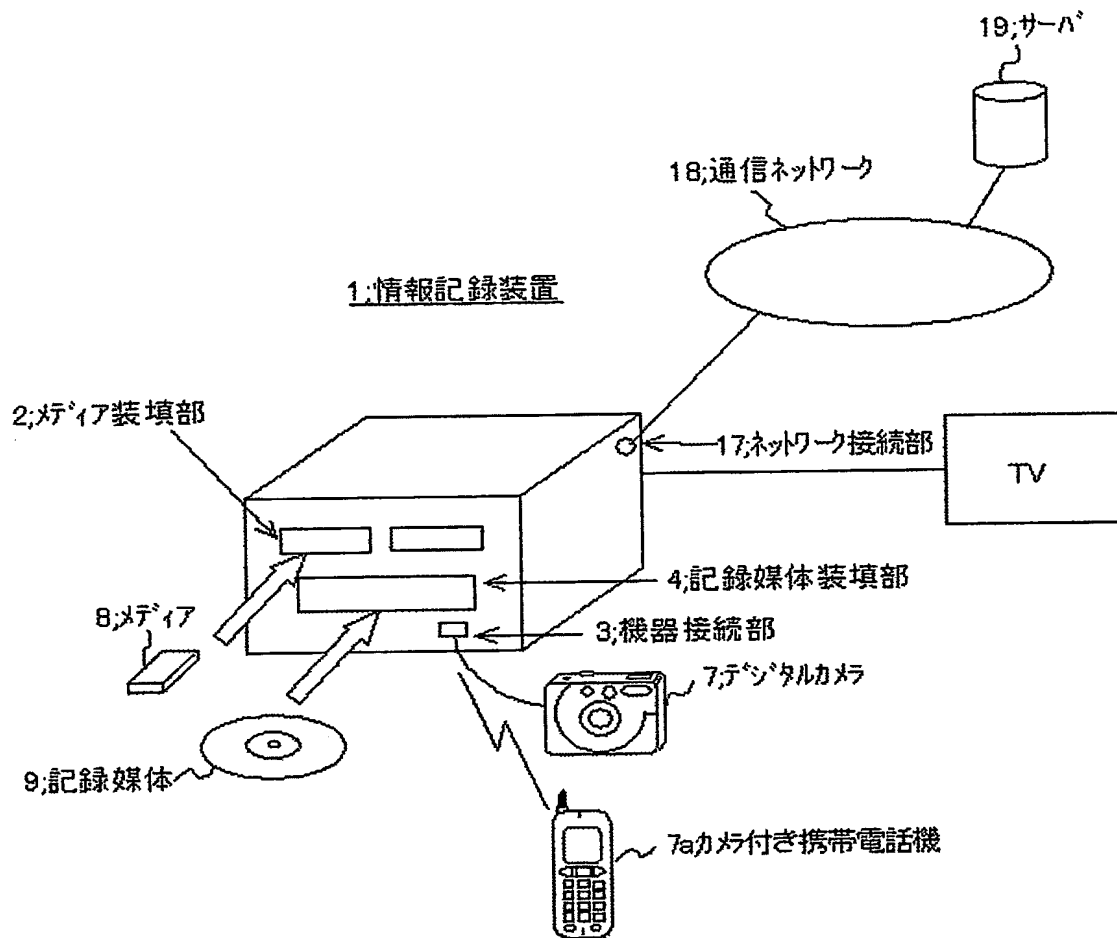
- 1 情報記録装置
- 2 メディア装填部
- 3 機器接続部
- 4 記録媒体装填部
- 5 表示部
- 6 操作部
- 7 デジタルカメラ
- 7 a カメラ付き携帯電話機
- 8 メディア
- 9 記録媒体
- 10 データ入力手段
- 11 情報入力手段

- 1 2 識別情報抽出手段
- 1 3 データ変換手段
- 1 4 データ転送手段
- 1 5 データ記録手段
- 1 6 記憶手段
- 1 7 ネットワーク接続手段
- 1 8 通信ネットワーク
- 1 9 サーバ
- 1 0 0 ポリカーボネート基板
- 1 0 1 有機色素層
- 1 0 2 反射層
- 1 0 3 保護層

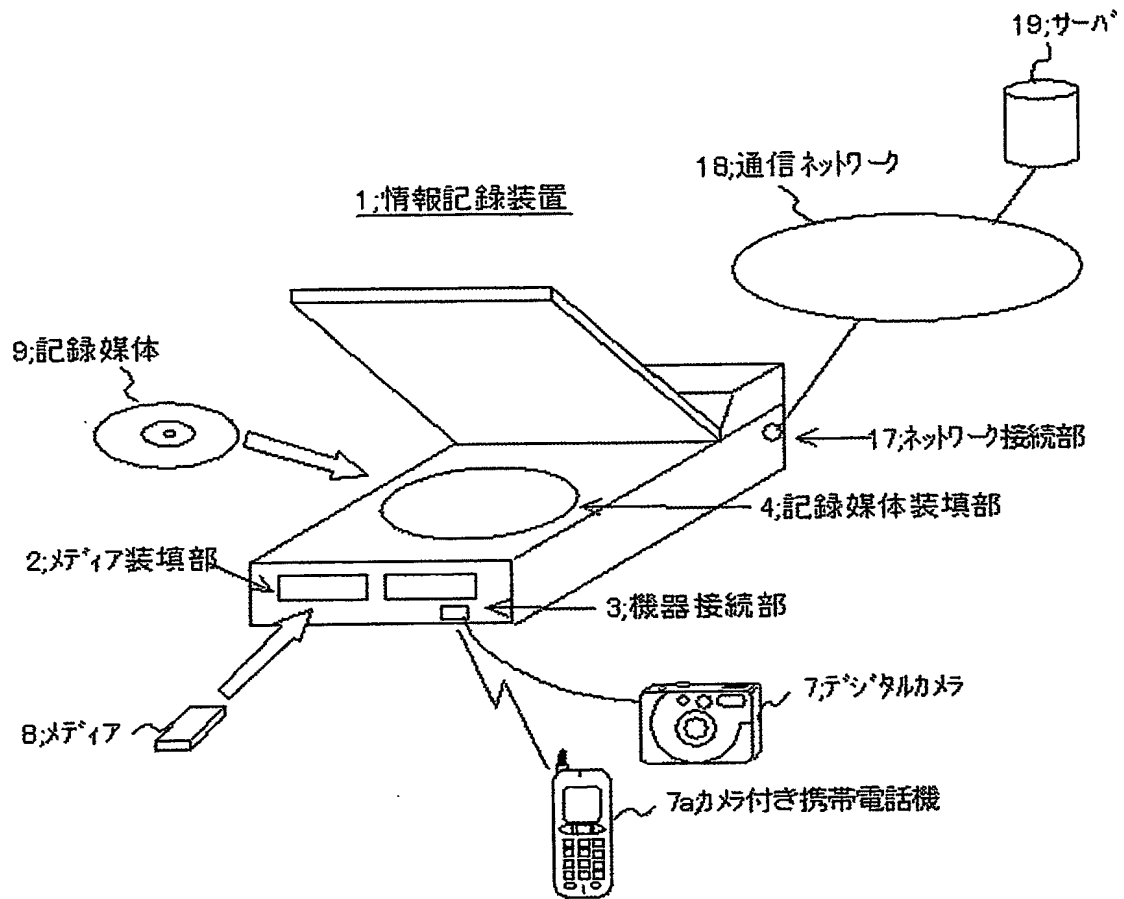
【書類名】 図面  
【図 1】



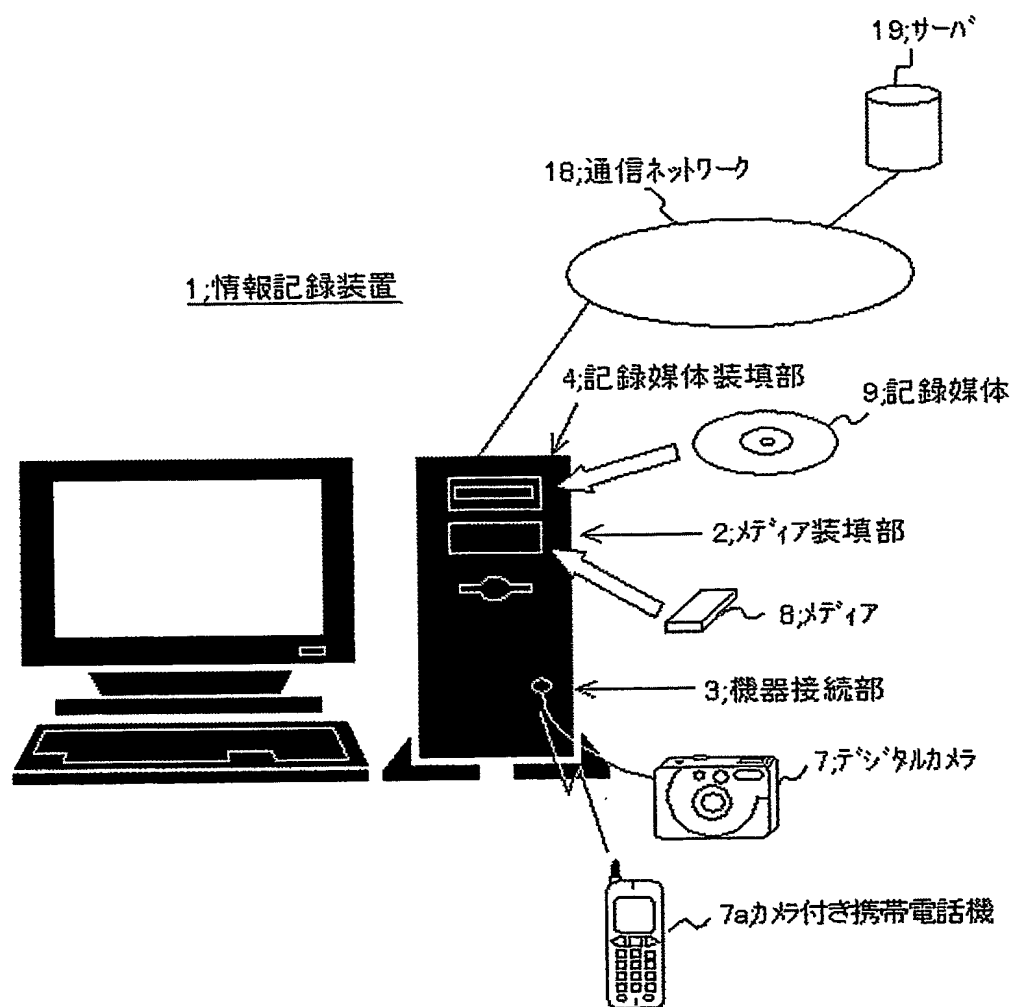
【図 2】



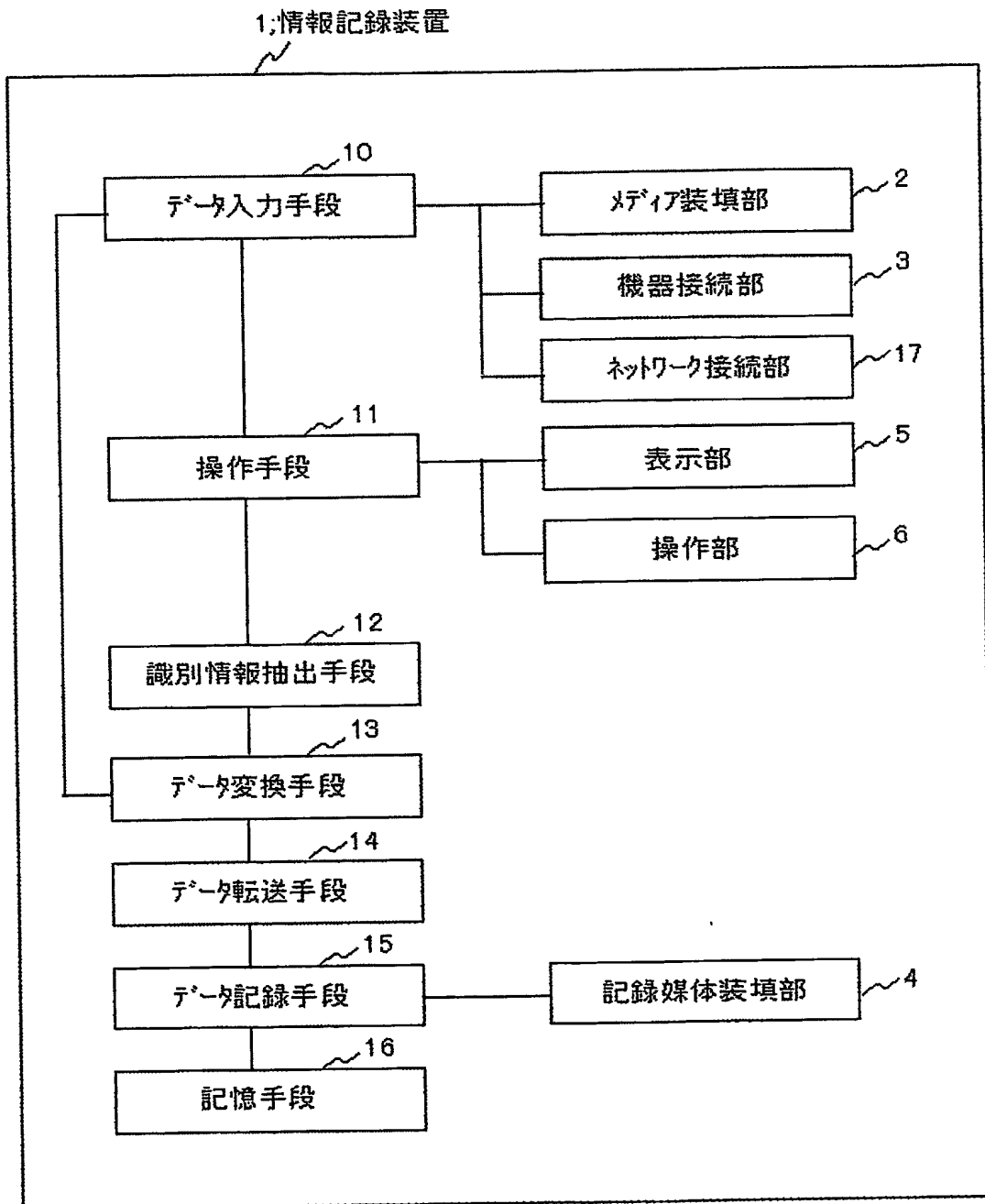
【図3】



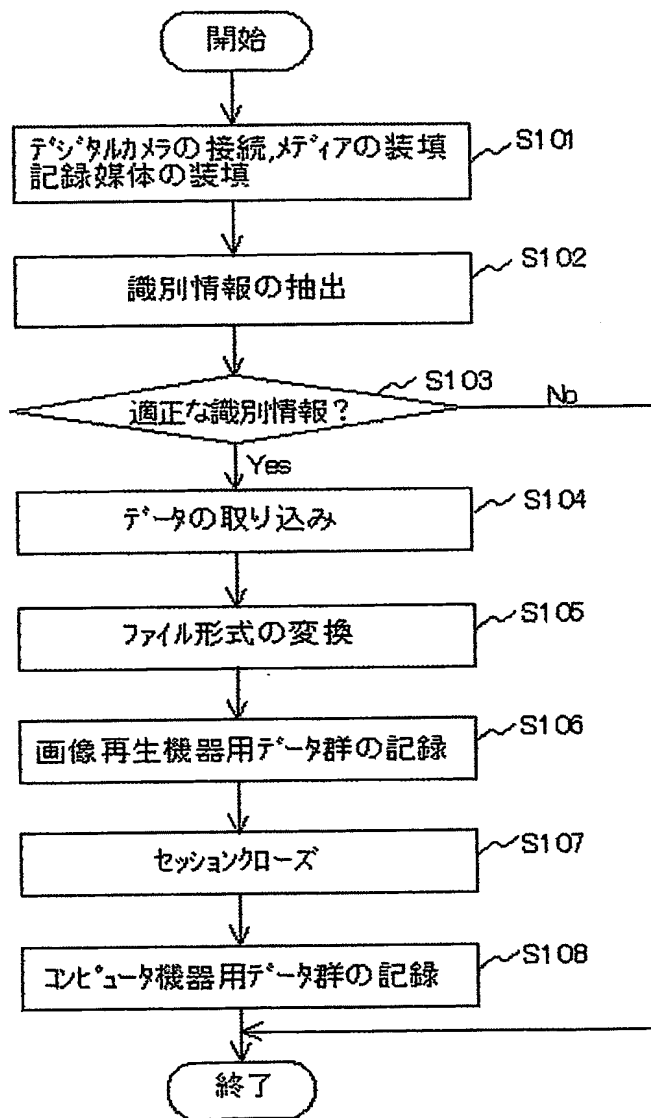
【図 4】



【図 5】



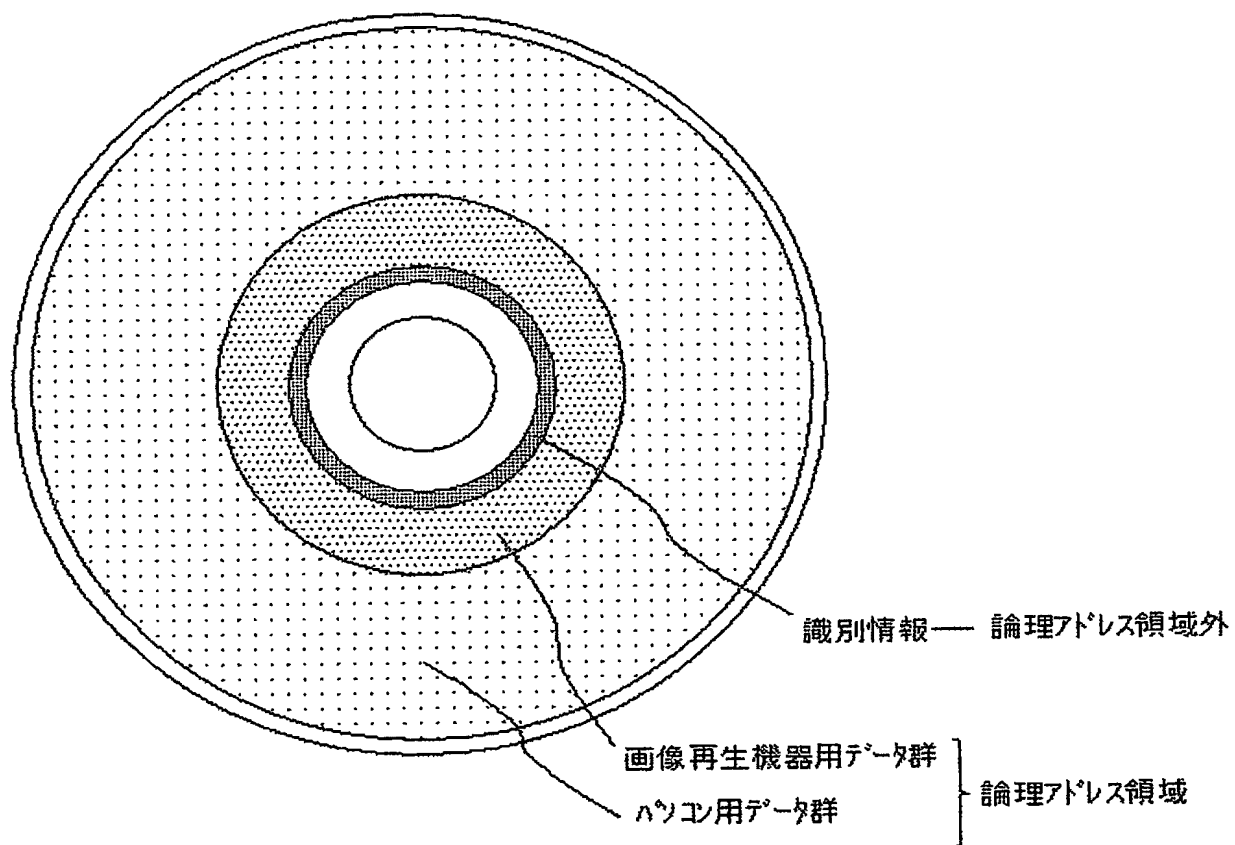
【図 6】



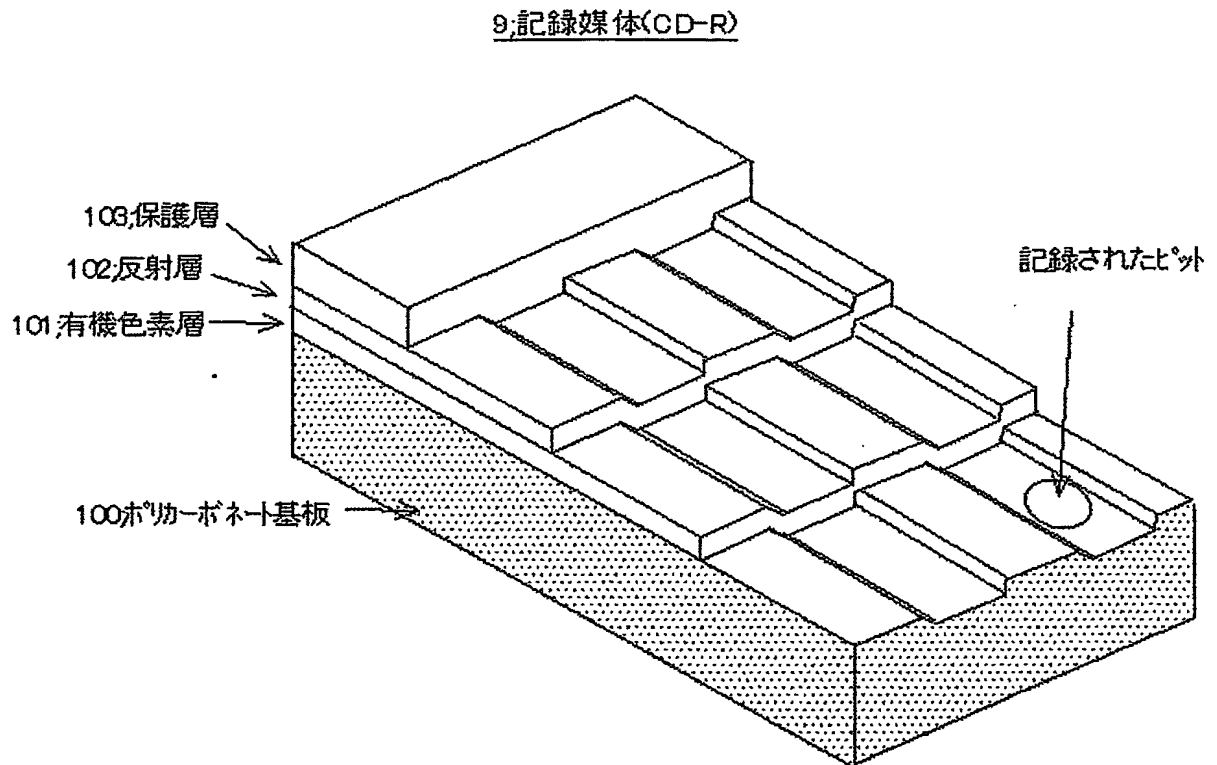


【図 7】

9.記録媒体



【図 8】



**【書類名】 要約書****【要約】**

**【課題】** 特定の記録媒体に対してのみ入力されたデータの書き込みを行うことができる情報記録装置及び記録プログラム並びに記録媒体の提供。

**【解決手段】** コンピュータを、少なくとも、CD-RやDVD-Rなどの記録媒体の特定の領域から、記録プログラムで利用される、該記録媒体を識別するための識別情報を抽出する識別情報抽出手段12、抽出した識別情報と予め定められた情報とを比較し、識別情報と予め定められた情報とが一致する場合に、入力されたデータ（静止画像データや動画データ、音楽データ、コンテンツ、アプリケーションなど）を記録媒体に記録するデータ記録手段15として機能させるものであり、予め、記録媒体の特定の領域（好ましくは論理アドレス領域外）に上記識別情報を書き込んでおくことにより、サービス提供者が提供する記録媒体の利用促進を図ることができる。

**【選択図】 図4**

特願 2003-360256

出願人履歴情報

識別番号

[303000419]

1. 変更年月日

2003年10月 1日

[変更理由]

名称変更

住 所

東京都新宿区西新宿1丁目26番2号

氏 名

コニカミノルタフォトイメージング株式会社